

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 18

2017年3月 8日発行

3月の聖句

「成長させてくださったのは神です」

(新約聖書 コリント人への手紙I 3章6節)

未来ちゃん

今回だけ、個人の名前を出させて下さい。

2年前、聖十字に見学に来してくれた未来(みく)ちゃん。生まれたときに気管切開をしているため、看護師さんや家族に療の除去もしてもらわなければなりません。歩いたり遊んだりできるのに、幼稚園にも小学校にも通えない子がいる。福祉の手が届かないようではござい...。そんな存在を、私たちに教えてくれたのが未来ちゃんでした。



あや先生から

昨年の4月、初めて未来ちゃんとお会った子供たち...

最初のころは、未来ちゃんの喉を見て、子供らしく素直に「それなあに?」と聞いてきたり、まだ言葉より先に手が出る小さなお友達は、ふいに触ろうとしたりすることもありました。その都度、「とっても大事なところなんだよ」と、わかりやすい言葉で説明をしてあげるとすぐに理解してくれました。

年長さんは「未来ちゃんのお世話をしたいけど、どんなことをしてあげられるかな〜」といったような顔で、じ〜っと未来ちゃんをみつめ、次第に自ら進んでお部屋移動時の持ち物の準備を手伝ってくれたり、「いっしょにいこう!」と手を差し伸べてくれるお友達が増えてきました。

始めはその手を振り払って大人の方にはばかり来てしまう未来ちゃんでしたが、運動会の行進練習をきっかけにお友達の手をつなげるようになりました。

そんな年長さんの姿を見て、年中・年少のお友達も自然と手を差し伸べてくれ、未来ちゃんもそれに応えるように笑顔を見せてくれるようになりました。子供たちは、

未来ちゃんの表情を読み取り「怒ってる...嫌だったんだね、ごめんね」

「笑ってる! 楽しいんだね」と話しながら一緒に遊んでいます。

今では「誰が未来ちゃんと手をつなぐか...」で

ケンカになるくらいみんな未来ちゃんが大好きです。

家族の方とケアや体調などの情報交換をこまめにしたり、周りの子供たちに理解してもらいながらお誕生会や歩くスキー、茶道など、お友達と多くの体験ができた1年間でした。



環境の変化に対して
おっって泣いていた
みくちゃん。
ごはんも2ヶ月せんぜん
たべなかつたのですか?

ちか先生から見た子供たち

「たべた!」
「もともと6月に初めてお弁当を
完食したときは
みんな大喜び!
今ではみんなと同じ
給食をたべられる
ようになり、苦手
だったコップで飲む
こともできるよ
うになり
ました。」

お部屋の移動も苦手で

「おっって
いましたが
先生やお
お友達と
手をたたく方が
おちついて
移動できます。
お友達の
力はすごい!!」



体をたくさん使って遊ぶことを大切にして
きました。初めての
ことは不安で怒って
しまうけど、だから
こまめにできることが
増えるたびに
まわりの
みんなは
心から
喜んで
いました。

みんなが歌うと体をゆるす
音楽大好きなみくちゃん。
イスから立ち
上がると
すわると
隣のお友達が
おいてくれます。
手遊びを覚えてくれる
お友達もいます。



未来ちゃんのお母さんから皆さんへ

500mlのペットボトル1本分で生まれた娘も4月から小学生。

明日どうなるのかわからない命、せめて名前だけでも未来を与えてあげたいと「未来(みく)」と名付けました。

いろいろな人たちの助けがあり、未来の世界は大きく広がりました。

集団生活できないか...と考えるようになったとき、発達障害があり医療的ケアも必要な未来は、保育園を断られ、市役所窓口でも「前例がない」「家庭で保育して下さい」と言われました。

どうにもならない状況に焦りばかりが大きくなっていった時、聖十字幼稚園との出会いがありました。園長先生の計らいで看護師を配置してくれることになり、何とか入学前に集団生活を体験させてあげることができました。

お友達とコミュニケーションが取れない・気管切開をしているので喋れない・怒ると自分を叩く...そういう子を子供たちは受け入れてくれるのだろうか、保護者の方々もどう感じるのだろうかと不安な気持ちでしたが、その不安は先生方そして何よりお友達が吹き飛ばしてくれました。

「手をつなげた」「一緒に遊べた」...日々のそんな知らせが何よりもうれしかったです。

当たり前前の日常を当たり前前に過ごせない障害児や保護者が周りにもたくさんいます。

障害があってもなくてもすべての人がありのままの自分で過ごせる...

そんな社会になってほしいと思います。

そのためにも、『心のストライクゾーン』を少し広げて下さい。

障害児や、その保護者に会ったとき、温かい目で見守ってくれるだけでその人たちは救われます。

ありのままにいられるように。

最後に...

先生方、保護者の皆様、園児の皆さん、一年間未来を受け入れて下さりありがとうございました。

坂本英理

